

2023 年度第 4 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2024 年 1 月 26 日（金）9 時 30 分～12 時 00 分

会 場：豊岡市役所本庁舎 3 階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、青柳順子、安藤有公子、木築基弘、黒田和真、
田原美穂、西垣由佳子、増原直樹、水嶋弘三、村田美津子、洞田美津子

欠席した委員：永田兼彦、野世英子、山下正明

事 務 局：コウノトリ共生課 課長 成田和博、係長 兵藤未希、主任 宇田川卓義
主任 戸田早苗
脱炭素推進室 室長 井上浩二

1 開会（司会：成田課長）

- ・会議の公開、傍聴の許可、会議録の公表を確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶

3 協議（議長：山室会長）

（1）2022 年度環境報告書（案）について

【会 長】事務局から 2022 年度環境報告書（案）について説明をお願いします。

【事務局】2022 年度環境報告書の第 2 部について、第 1 回環境審議会でご意見をいただき修正した個所について説明する。

目標像①については、7 ページの公共施設への広葉樹苗木提供数のグラフを、豊岡市林業ビジョンで使われている市内の森林の分布状況が分かる図に差し替えている。そのうえで針葉樹と広葉樹が混じりあった針広混交林の説明を行い、限定的ではあるが市内でも取り組まれている落葉樹の植樹について説明を記載している。

目標像②については、11 ページ有害鳥獣駆除数のグラフの説明にサルを追記した。

目標像③については、15 ページの（2）環境にやさしい農業の項目の説明文に慣行水田でよく使用される被覆肥料（一発肥料）の記載を追加し、コウノトリ育む農法では被覆肥料を使用しないため環境負荷が低減されることも改めて記載した。

また、16 ページ(4)農業スクール研修生について、卒業後の進路についての記載は、過去にトピックスとして取り上げたことがあるため、トピックスと

して特出しはせず、本文中に記載を追加する形とした。

目標像⑥について、25ページの地域コミュニティの取組み事例の紹介で、日高町八代コミュニティの八代オクラについて掲載していたが、以前、別の目標像のトピックとして取り上げていたことから、竹野町中竹野地区ふれあいマーケットの内容に記載を変更した。

目標像⑦について、27ページのコウノトリ KIDS クラブの2022年度活動の紹介に青森県むつ市と宮城県南三陸町との交流活動を追記、29ページの2022年度評価について、コウノトリ KIDS クラブが豊岡の魅力を市外発信していると追記した。

目標像⑩について、37ページに但馬農業協同組合提供コウノトリ育むお米の出荷データをグラフ化した。グラフからは減農薬米の出荷量は沖縄が最も多く、近畿では無農薬、関東では有機 JAS と各地域で人気のあるお米があり、海外を含め広くコウノトリ育むお米が選ばれていることが分かる。

2部についての修正についての説明は以上とし、引き続き第6部の環境審議会からの意見について説明する。

【事務局】「第6部 2022年度の環境に関する取組み」については、今年度から意見に「新規」と「継続」という目印を追加している。

委員から出た意見の中には、世の中の潮流等を受けて新たに取り組むべき目新しいもののほか、しっかりと時間をかけて取り組んでもらいたい課題などがある。前者については、新たな問題提起として、後者についてはすぐに解決が難しいものとして問題の進捗状況の確認をするという意味合いを込めて、それぞれ「新規」「継続」というカテゴリー分けをしている。説明は新規の点を中心に行う。

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】目標像①への新規意見として、生物多様性向上、防災効果、省力的な整備ができる環境保全型の針広混交林を整備していくことが求められるという点を挙げたほか、森林環境譲与税を活用した民間林業ビジネスに付加価値を生む取組みや長期的な人材不足を補うためのイメージアップ戦略の必要性、継業バンクの活用などを追記している。

【委員】現在取り組んでいる人への支援の記載がないが問題ないか。また但東町には軽トラが入れるような大橋式作業道があるが、資金はかかってもこのような長期的に山に入れるような支援をすべきではないか。

- 【委員】大橋式作業道について、今後の収支を考えた場合すぐに施工方法として取り入れていくことは現段階では難しいのではないか。林業従事者の減少による人手不足の解消の部分で言えば、自伐型林業など新たな林業事業体が豊岡市内に増えることを願う。
- 【委員】「継業バンクなど」の部分で、意味があって「など」を加筆しているのか。具体的にイメージがあるのであればそこを肉付けてもいいと思う。
- 【事務局】委員からの意見で継業バンクの活用があり、それを取り入れた形で具体的なイメージに基づいたものではない。
- 【委員】継業バンクは、すでにある事業を継ぐ形になるため、既存の事業体の体力がない現状では、活用は難しいと思う。
- 【会長】では、「自伐型林業等の新たな林業経営体」を、人手不足を補う方法として記載する方がいいか。また、継業バンクの記載についてはどうするか。
- 【委員】そのような意味合いでよい。個人の考えとしては、継業バンクと書ききれない状況ではまだないと思うが、市の判断に任せる。
- 【事務局】関係課等にも確認し、記載の仕方を考える。
- 【委員】自伐型林業について詳しく知りたい。人手不足を補う方法として自分の持ち山の木を自分で切ることだと思うが、その様なことが個人でもしやすいのか。自伐型林業で人手不足を補えるのか。
- 【委員】自分の持ち山を自分で手入れをし、一定年齢経った樹木を伐採して売り収益を得ることを一般的には指す。しかし豊岡市では、昔のような林業一本ではなく、閑散期に農業等行っている林業経営体も自伐型林業と考え、半農半林業という形で自伐型林業という分類に含まれている。
- 【委員】自伐型林業を具体的にどのようにサポートしていくのか。
- 【事務局】関係課のほうに確認し、豊岡市としてどのように応援をしていくのかについて記載をする。

【委員】豊岡市の中ではまだ自伐型林業という形態が事業体としてできておらず、林業を主にされている団体が多い。チェーンソーを扱うにも資格が必要で、安全性を考えると現実問題難しい部分もある。
関係課には自伐型林業という言葉を計画に盛り込むことがいいのかどうかも確認すべき。

目標像② 里山がさまざまに利用され、関わる人が増えています

【事務局】新規の意見として、家庭菜園への有害鳥獣被害は、耕作放棄地増加防止の観点からも、家庭でできる有害鳥獣対策の研究や普及が求められる。また、人里近くに野生動物が増えていることから、寄生するマダニやヤマビルによる二次被害もあるため、対策の周知を継続する、という点を挙げている。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】新規について、農林水産省が主導する「地域計画」では、農地の利活用を地域ぐるみで考える必要があるため、地域住民と一緒にやってつくる地域計画の策定に向けたサポート体制の充実が求められる。
継続になるが、耕作放棄地への新たな取組みや、学校給食での地場産物や旬菜の利用によるCO₂排出量削減につながる点等を追記した。

【会長】「地域計画」について説明してほしい。

【事務局】もともと、「人・農地プラン」という事業があり、基本的には集落の農地を今後どうしていくのかを集落の全員で考えるというもの。それに加えて「地域計画」では、農地として守る農地やなにか別の形で活用していく農地など、今後の農地の活用を農家だけでなく地権者等も加わり地域ぐるみで話し合う。

【委員】豊岡市は何年度に策定予定なのか等は決まっているのか。

【事務局】「地域計画」は、集落単位、地域単位で考えるもの。豊岡市全体で1つの計画を作るという形ではない。

【委員】すでに担当課から発信等はされているのか。

【事務局】発信されている。取組みが進んでいないところもあるかもしれないが、興味があるところには集落説明会を行っている。その際、関係課がコーディネー

ターとして参加している。

【委員】「人・農地プラン」の時に決まりはなかったが、「地域計画」は2年以内に全ての地区で作ることが義務付けられている。計画は筆ごとに誰が耕作するかなども決めなくてはならない。

【委員】小さい集落などは、田んぼはあるがもう手入れがされておらず作物を作っていないところがほとんどで、それを再度耕すことは大変。2年以内に決めることが実際できるだろうか。

【委員】実際にもう作れない、作ることをやめると決めることも地域計画。手を入れられないところは別として、現状田んぼである場所をいかに何十年後も農地として守るか。そのために耕作する農地をまとめて団地化したり、担い手を育成したりする。地域の方の総意で考え、将来像を計画して盛り込んでいく。

【委員】やらなければならないということは理解したが、地域計画という言葉が第6部でいきなり出てきているため、伝わりにくい。環境報告書での書きぶりを変えた方がいい。

【会長】第2部の目標像3のトピックスの部分に地域計画を追加して説明するというのはどうか。

【事務局】地域計画が始まったのが今年度のため、第2部分に記載をすると時系列がずれてしまう。来年度に記載をする。

【委員】それならば、第6部にも地域計画という言葉を使わず、地域計画の内容を説明する文言で表現したほうがよい。

【委員】環境審議会の思いだけではなく、動きがあるということを伝えるために、「人・農地プラン」という言葉を使って、地域で考えることが求められているというように記載するのはどうか。

【委員】2022年度の報告書ではあるが、目標像5の内容（コウノトリの繁殖地情報）と書き方がずれてしまう。冊子作成時点での最新情報を載せるべきと考えるため、地域計画に関しては米印等で「2023年度から～」など、注釈をつける

のほうか。

【事務局】環境報告書にはタイムラグがでてしまうため、書きぶりについては調整をした上で会長、副会長に確認をして最終的に仕上げる。

【委員】最新の情報や方向性については盛り込んであったほうが次につなげるためにも、大切だと思う。

【事務局】第2部の目標像3の評価の中に、1つだけ▲があるが、この内容がこれから地域計画によって解消していくことであり、現時点で使える表現を使っているということは理解いただきたい。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】新規として、2部でも追記したが、慣行水田におけるプラスチック被覆肥料について対策を求める旨や、当該肥料を使用しないという面からも、コウノトリ育む農法への切り替えについて記載した。続いて継続の意見では、漂着ごみについて啓発範囲を広げ、市外の人たちも関心を持って清掃活動等に関われるような取組みを追記している。

【委員】マイクロプラスチックとは違うが、河川環境の保全として、家畜のふん尿等も雨等で川や海に流れている可能性があるため、農業者だけではなく畜産農業者にも問題意識をもってもらいたい。

【委員】被覆肥料の取組みについて、啓発や研究開発も重要ではあるが、書きぶりが弱いと感じる。使用量や水系への欠片の流出量などの現状把握が必要ではないのか。データや数字をもって問題に取り組む必要がある。プラスチックごみの削減計画も先進的につくられているため、あわせて水田での取組みも強化できればよい。

【事務局】データ等は関係課に確認する。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】新規意見として、コウノトリは今後も全国的にますます数が増加していくことが見込まれており、これまでの野生復帰の取組みが挙げた成果を市民全員で再認識し、次なる共生のステップに移るイメージを共有していくことが求められる。

続いて、自然生態系について、標本や剥製など実物の確認記録も非常に重要であるが、現在、本市には標本等を収蔵保管する専門施設がない。廃校を活用した施設整備等に取り組み、後世に豊岡の自然史を引き継いでいくことが求められる。

継続意見としては、コウノトリの羽数が年々増加するにつれ、人工物との衝突事故や電柱への営巣などの事例も増加しているため、周知等を引き続き行う。加えて、市内外での事故やケガを目撃した際の対応の周知を求める。

続いて、外来種問題について市が管理する公園等の施設や道路、各庁舎は市民の目につきやすいため、規範となるべく積極的な外来種の駆除を求める。

【委員】廃校を活用した施設設備とあるが、具体的な取組みがあるのか。

【事務局】今のところ具体的な話はないが、昨今統廃合により学校が使われなくなることが増えており、活用方法の一つとして施設をつくってはどうかと意見をいただいたため記載をしている。

【委員】標本については、所有者が高齢になられて、家族の方から引き取ってもらえないかと問い合わせがある。中には、貴重な豊岡の生き物の標本もあるが、標本を何十年も置いていくには湿度や温度管理も必要で、お金もかかる。豊岡にはそういうものがないので言われているのだと思う。

目標像⑥ さまざまな世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【事務局】新規意見として、子どもたちが地域を学ぶ機会については、学校での学習等で義務的に学ばせるのではなく、自ら興味を持ち、知ってもらい、活動してもらうことが重要であり、地域のことを知るモチベーションを高めるような取組みが行われることが望まれる。

継続では、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や祭りが中止となり行事の再開が危ぶまれるものもある。新しい形での開催も含め、市・地域住民・事業者が一体となって知恵を出し合うことが求められる。

【委員】最後の意見の、継続のマークの横に市のマークしか書いていない。市民と事業者も追加したほうが良いのではないか。

【事務局】追加する。

【委員】目標像の表現が「楽しみ」という表現になっているにも関わらず、学ぶという方向になりすぎてしまっているため、参加者が増えない。「様々な人が参加したくなるような～」というような文言を追加してもいいのではないかと思う。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】新規意見として、コウノトリ KIDS クラブ出身の子どもたちがメッセンジャーとして豊岡の良さを発信できる風土を作っていくことで、活動の価値も高まり、関心の薄い子どもたちにも興味を持ってもらいやすくなる。外部に情報発信する際の協力や機会の創出等の支援を期待する。

【委員】「外部に情報発信」というのは、市外という認識でいいか。コウノトリ KIDS クラブは確かに他市とも交流がある。そのような大きな動きは目に見えてわかるがそれ以外の一般市民のボランティア団体でも、口コミのような形で広がっている可能性もあると思う。市民が自分たちで行っているという意識が大切。今のままだと、市だけのように感じる。

【委員】外部というのは豊岡市外と決めつけていたが、本当は豊岡市の子どもたちに1番知ってもらいたいのではないか。外部だけでなく、豊岡の子どもたちというような文章も少し追加してはどうか。

【事務局】先ほど指摘いただいた点も含めて書き方を検討する。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【事務局】新規意見として、給水スポットの設置について使用状況や利用者の感想等の調査をし、情報発信を行うことで、事業所等への給水スポットの設置が進み、マイボトルの普及が進むことを期待する。

【委員】いろいろなやり方でごみの減量化を進める方法がある。そのひとつとしてコミュニティでバザーを行っている。これがいろいろな価値につながっていて、このような活動のシェアが地域コミュニティを通じて活発化している。そういう内容もあった方がいいのではないか。

【会長】書きぶりを事務局と検討する。

【委員】現在の給水スポットの位置などが分かるものはあるのか。あるのであれば、二次元バーコード等で載せたりできればいいのではないか。

【事務局】現在は、市役所本庁舎、豊岡稽古堂、各地域振興局、図書館本館、立野庁舎にある。これからの取組みとして、学校に順次設置していく方向性が決まった。これらが公共施設の取組みである。地域の給水スポットを検索するものとして、「mymizu (マイミズ)」というアプリがある。利用者の方がアプリ内で検索すると、設置者が登録している場合に限るが、公共施設以外の給水スポットの場所が分かる。掲載するのであれば、Web アプリへのリンクを二次元バーコードなどで記載するという方法がある。

【会長】第2部のトピックスに「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」について掲載されているが、そこに給水スポットの話をもう少し書き加えるのはどうか。

【事務局】2022年度には、市役所本庁舎と豊岡稽古堂にしかなかった。2023年度のトピックスとしてなら設置場所の広がりには記載できる。2022年度時点でアプリは存在したため、都度更新で掲載情報は変わるが、トピックスに二次元バーコード等を記載することは可能。第6部の意図として、公共施設に給水スポットがあるというだけではなく、民間の事業者の動きもあるため、それを周知してペットボトルのごみを減らすことになると思う。

【会長】給水スポットが第6部でいきなり出てきているため、トピックスの中に記載する必要がある。

【事務局】トピックスの中にウォーターサーバー設置に係る協定を交わした際の写真があるためそれを載せる。第6部の方では、「公共施設のウォーターサーバーの設置を手始めに～」など給水スポット設置の流れに持っていけるような意味合いの表現を考える。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】新規意見について、車の相乗りもCO₂排出量の削減に効果がある。高齢化が進む地域などでは相乗りタクシー等の移動手段が確立されることにより、省エネ、交通弱者の減少につながるため、市や事業者による支援を期待す

る。

続いて、ノーマイカーデーなど市の施策として行っている CO₂削減につながる情報が市民、事業者向けにわかりやすくまとめられ、学校の授業等にも活用されることで、広い世代でさらなる脱炭素の取組みや環境意識の醸成が進むことを期待する。

継続意見では、公共交通機関の利用は、CO₂排出量の削減に加えて、交通インフラの維持にもつながるため、通勤の移動方法を考える啓発を強め、まずは自身でできる省エネ行動を実践しつつ、それらをコミュニティや個人間で様々に広げていくことが重要。

【委員】 タイトルが「実践する」となっている中で、ノーマイカーデーに関する内容を見ると、事業者や学校等にまず活用されることで、そこを通じて広い世代でさらに活用されていくのだと思う。その「広い世代」は、個人になるのではないか。個人となると「取組み」という表現より、行動というイメージになるのではないか。「環境意識の醸成が進み脱炭素につながる行動が増えていくことを～」など書き方を少し変えてはどうか。

【会長】 書き方を修正する。

【委員】 「楽しみながら」という文言が入っている割には、あまり楽しくなさそうな感じがする。公共交通を利用する楽しみを見だし、追加で記載できれば楽しみながらの部分もカバーできると思う。

【事務局】 ノーマイカーデーのことについて、周知不足と認識しているため、楽しみな部分をさらに強調し広めていけたらと思う。

【委員】 例えば、公共交通でイベントに参加すると特典が付くと呼びかけを行う、また地域コミュニティで公共交通を利用した遠足など楽しいイベントを提案することもいいと思う。

目標像⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】 新規意見としては、湿地整備等で受け入れている市外からのボランティアツアーを、豊岡演劇祭等のイベントでも受け入れを行う事で、豊岡の取組みをさらに深く知ってもらい、交流が深まることを期待する。

継続意見としては、環境経済認定事業に認定されるメリットとして、共同プロモーションの機会の創出や環境イベントへの出店等の後押しといった支援

に取り組むことを期待する。

【委員】サステイナブルツーリズムや万博のフィールドパビリオンなどは2022年度の報告書には適さないかもしれないが、観光活用や、活動の観光資源化を検討するなどの記載があってもよいかと思う。

【事務局】「神鍋高原ゆきみらい100年宣言」も2022年度に調査し、2023年度に行動計画も作られた。また、コウノトリの郷公園もひょうごフィールドパビリオンになっている。来年度の報告書で、まとめてトピックスに記載したいと思う。

【会長】最後に、全体を通して質問や意見があれば発言してください。

【委員】新規と継続を示すアイコンがあるが、新規のみでよいのではないか。また、継続としつつ内容が大幅に増えている項目もあるので扱いを検討する必要がある。

【委員】デザインも他のアイコンと同じ形で目立たないため、形や文字色を再考してはどうか。

【事務局】そのように改める。

(2) 生物多様性推進部会の設置について

【事務局】豊岡市環境審議会の中に部会を設置することについて提案する。

豊岡市生物多様性地域戦略を2013年9月に策定し、5年ごとに取組み内容を見直しながら戦略を進めている。2022年に2回目の見直しを行い、短期戦略Ⅲ(2023～2027年度)の取組み内容を決め年度末に公表した。「豊岡市環境審議会条例」の第8条で「審議会は、必要に応じ、部会を置くことができる」と定められおり、生物多様性にかかわる取組み内容を審議していく場として部会を設置することで、生物多様性地域戦略の取組みについて効果検証する場を設けたいと考えている。

部会の役割としては、戦略の取組み状況の把握と評価や今後の取組み方針についての提案等の協議、個別に検討すべき課題が出てきた場合必要に応じてワーキンググループを設置し課題を検討する。また、推進部会の中で議論されたことについて環境審議会に報告するということを想定している。部会の開

催は年に1回を考えているが、5年後の目標は「年に2回開催」となっているためどこかのタイミングで2回開催にしたいと考えている。

昨年度の生物多様性地域戦略改訂委員会の委員を中心とした学識者と市民で構成する予定である。必要に応じて、オブザーバーや委員以外の専門家を招くことも考えている。

【委員】生物多様性部会の役割は把握と評価ということだが、その報告を受けて審議会ではどんなことを行うのか。

【事務局】環境報告書の内容と連動してくるので、報告を受けて何か提案等があれば提案していただきたいが、必ず審議を求めるというのではなく、方向性を共有する場とする。

【委員】委員の中で生物多様性について理解して意見を述べられる人がどれくらいいるのか。環境基本計画に沿って意見を言うのが環境審議会であるが、部会の専門家からの意見を我々で理解できるのか不安があるため、オブザーバーという形ででも、学識経験者等に環境審議会に入っていただく必要があるのではないかと。部会設置に反対するわけではなく、この機会にみなさんの意見をききたい。

【会長】この意見についてどうか。

【委員】委員の中にはいろいろな分野の専門家がいるが、生物多様性についての専門家が少ないのは同意する。勉強会を開催するのはどうか。

【委員】生物多様性における緊急的な内容を市に伝えたい場合、環境審議会を通すことで遅れが生じるのではないかと。ほかのルートで施策に反映することは出来ないか。

【事務局】来年度以降はなるべく早い時期に部会を開催したいと考えており、環境審議会と開催時期が調整できれば共有の遅れは発生しにくいと思われる。環境審議会で挙がった意見について話し合うため、部会を2回開催できるとなるとお良いと考えている。また、部会とは別にワーキンググループを開催し、喫緊の課題についてはその中で市に伝えるというのも一つのルートとして考えられる。ただ、委員の懸念どおり、環境審議会の流れと完全に合わせるとなると反映に遅れが生じる可能性はあるため、詳細は改めて検討したい。

【委員】これまで生物多様性推進部会のように、提案や改善策を市に進言する機会はあったのか。

【事務局】生物多様性地域戦略を推進するにあたって、進捗状況を報告するような仕組みがなかったため、残りの5年間は進捗状況を確認できるようにしたいというのが部会設置に関する提案の発端。また、環境審議会に部会を設置すること自体、今回が初の試みであるため進め方も試行錯誤となる。

【委員】生物多様性地域戦略のチェック機能がなかったため、これからは年に1回報告、把握、提案をすることになった。今までは報告書の作成のみだったが、環境審議会の位置付けが変わってくるのではないかと。市は環境審議会に何を求め、どう思っているのか。

【会長】長く環境審議会に関わってきて、当初の環境報告書と比べデータも増え根拠付けられ内容が充実したと感じている。また、2年前から第6部の内容を市長と副市長に直接報告することが出来るようになった。報告書を作って終わりではなく、いただいた意見をまとめ各担当課に提言し、フィードバックをもらい、施策に反映する仕組みも整ってきたように思う。今回、環境審議会の中に部会を設置するのは初めての試みであり、試行錯誤し環境審議会の方向性も含め議論していく必要がある。市民や専門家が施策に意見を述べ協議する場があるので、充実させたいと考えている。

【委員】環境審議会の意見以外取り組まれていないわけではないので、市として緊急性の高いものは、事務局が対応してくれると信頼している。

【事務局】事務局が求めることについて、「豊岡市環境審議会条例」の内容を踏まえ説明したい。環境審議会の役割として、市の環境施策全般についてPDCAサイクルに沿って審議するということがある。これまでは環境基本計画に基づく1年間の取組みに関して環境報告書の作成とそれに対する審議が中心だったが、近年では脱炭素の取組みに関する審議も行っている。

いずれも、取り組むべき施策がしっかりできているかを審議していただき、出来ていないものは市として進めていくことが目的。生物多様性については、部会で審議し、環境審議会ではその結果を受けて環境報告書に織り込めるものは入れていく形になる。心配されていたタイムラグについては、緊急性の高いものは環境審議会の提案を待たず事務局で判断し、対応していくことになる

と思う。

【委員】生物多様性についての内容を共有するために、報告書や地域戦略の理解を深め、反応も聞きたいと思う。専門家を招くほか、視察や勉強会を開催し、5年、10年後を見据えてみんなで知識を増やしていきたい。

【事務局】コウノトリ野生復帰は生物多様性の保全の取組みの一つと考えている。事務局の仕事として「生物多様性の保全」と「脱炭素の推進」の2つが大きな柱となっている。どちらも、今日行動したから明日よくなるというものではなく、やっていることの結果が見えにくいものである。それを進めていくには、強烈に鮮明に知っていただく機会を設ける必要がある。勉強会や視察も委員の負担にならない程度で実施を検討したい。

生物多様性と脱炭素は非常に密接に関わっており、地球温暖化が進むことで多くの生き物が絶滅している。世界的に脱炭素と生物多様性に注力するという流れがあり、日本も条約国（気候変動枠組条約）となっている。説明不足な点もあったが、そこを知っていただく機会を作っていきたい。

【委員】事務局の提案に賛成する。初の試みであるから、最初から完璧は難しい。進めていく中で直さなければいけないことは直し、ベストな状況になるよう頑張っていたきたい。

【委員】環境審議会からの疑問は、専門家ではない市民の疑問でもあり、多くの方がかかわることは、施策をとるときの判断基準も増えるのではないか。負担が増えると大変だが新しいことに取り組んでいかなければいけないと思う。

【委員】女性の委員がもう一人増えるとジェンダーバランスがとれてよいと感じた。

【事務局】検討していきたいと思う。生物多様性の分野に詳しい女性に心当たりがあれば、教えていただきたい。

【会長】勉強会の開催について、過去には朝来のバイオマス発電所の見学を実施したことがある。今後そのような機会は設けていきたいと思う。

部会から環境審議会への共有に関して、審議内容をどのように報告するかが大事だと考えている。共通する委員には、環境審議会としてどのような形で報告されると審議しやすいか、部会の中で提案していただきたい。

4 報告

- ・豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定に伴う 2030 年度温室効果ガス削減目標の変更について
内容：温室効果ガス削減目標の基準を「森林吸収量を加味した排出量」から「森林吸収量を加味しない排出量」に見直したことにより、目標値を変更する。

5 その他

- ・委員報酬の振込について

6 閉会

- ・雀部副会長あいさつ